

新しい「概念」の構造を求めて：概念論についての分野横断的研究

五十嵐 涼介 (Ryosuke Igarashi)

東京都立大学

「概念」は、我々が物事を捉え、思考する上での基本的な単位であると見なされる。そのため、伝統的には哲学の領域において、また近年では認知科学、情報科学などの分野において重要な研究対象となってきた。「概念」を巡る議論は、存在論や認識論などの観点からなされるものも多いが、本ワークショップで取り上げるのは、その「構造」についての理論である。

そもそも「概念」は、それ自体単独であるものではなく、他の概念とネットワークを形成し、構造化される。このような概念構造についての理論の代表的なものとしては、アリストテレスに由来し、近世に定式化されたと考えられる抽象説や、ヴィトゲンシュタイン、Rosch らに由来すると考えられるプロトタイプ理論などがある。本ワークショップでは、このような概念構造の理論について、近年の動向を踏まえつつ、哲学史・生物学・統計学・情報科学・社会科学といった諸分野の事例を分野横断的に研究し、実際の学問の場で用いられている「概念構造」のあり方について一定の見通しを与えることを目的とする。

さらに、そのようにして得られた事例研究の知見を元にして、諸分野における「概念」を統一的に扱い、よりよい思考の枠組みとして用いることができるような、新たな概念構造の理論の可能性を探ることにしたい。